



コロナ禍  
の影響を



# 子どもたちに インタビュー！



【概要版】

日時／2021年1月16日13:30～15:30 会場／兵庫県民会館7階「鶴の間」

兵庫県青少年団体連絡協議会（青团連）は今年度の調査研究テーマに、「新型コロナウイルス感染拡大に関する兵庫の青少年活動等への影響と課題」を設定。コロナ禍をどのように受け止めているのか、子どもたちにインタビューして現状を把握し、今後の青少年活動に役立たせていきます。調査では青团連の各団体に所属する小学3年から5年生までの9人が協力してくれました。概要版では2つの内容を紹介します。

## Q A 大人たちにお願いしたいことは？

島田さん 油断大敵！  
「油断をしないとイケないよ」  
と言いたい！

谷藤さん たまにパパが休み  
になることもあるので、  
時間があったら宿題を見る  
ことをお願いしたい

齋藤さん ワクチンを早く  
作って！ 世の中に配ろ  
う。ちゃんと広めない

今野さん 学校でマスクを  
外して良いかを聞きたい。

また、コロナの予防につい  
ても

嘉納さん 世界中の人にち  
ゃんとワクチンが行き渡る  
ようにしてほしい

花川さん 早くワクチンを  
世界に広めて量産してほし  
い。治療薬を早く作ってほ  
しい

高橋さん コロナでいま、  
社会がどうなってるかなど  
をより詳しく、そして分か

りやすく教えてほしい  
坂西さん コロナの感染状  
況などを詳しく教えてほし  
い。政府の考えをもっとニュ  
ースなどで言ってほしい

中村さん 政府も子どもの  
いろんな意見を聞いてほし  
い。大人ばかりで決めない  
で、子どもの考えも使って  
ほしい。学校や家でストレ  
スが溜まった時、どうした  
らいいのか



島田  
さん



谷藤  
さん



齋藤  
さん



今野  
さん



嘉納  
さん



花川  
さん



中村  
さん



坂西  
さん



高橋  
さん

## Q A 将来やりたいことは、コロナで変わった？

谷藤さん コロナの感染が  
拡大してソーシャルディス  
タンスが始まり、すごいな  
と思った

島田さん 将来の夢だけ  
ど、阪急電車の運転士にな  
りたいと思っている。でも、  
もしコロナで今のような社  
会が続いたら、普通の社会  
人になる

齋藤さん 僕は別になりた  
い職業はないけど、親友を  
大切にできる人間になりた  
い。コミュニケーションが  
得意な人。それはコロナが  
続いても変わらない

花川さん バスケットのプロ選  
手になって、新しい病気が  
流行ったら、なるべく医療  
関係者に募金したいと思  
う

嘉納さん 世界を回りたい。  
世界一周をしたり、普  
通に暮らすことができない  
人たちを助けていきたい

今野さん コロナになる前  
は夢はなかったけど、今は  
自分だけじゃなくて人の心  
配もできる人間になりたい  
中村さん コロナが出てき  
て、いつも辛いことを聞い  
てくれるお母さんや、忙し

い中で医療機関の人が頑張  
っているから、私もそうい  
うことができ、困ってい  
る人を助けたり、子どもの  
ことを聞いてあげられるよ  
うな優しい大人になりたい  
高橋さん ずっと機械に関  
する仕事がしたいと思っ  
ている。コロナで変わった  
ということは全くない

坂西さん 将来は人のため  
に働けるような仕事をし  
たいと思っている。それは  
コロナが拡大する前から考  
えていた

教育関係者・青少年団体指導者への提言

## 子どもたちに分かりやすい 情報伝える工夫を

萩本 義郎・青团連監事(いへしま自然体  
験協会常務理事)



子どもたちが社会の出来事に関心を持ち、立派な社会人として成長をしていく姿がよく分かりました。今こそ子どもの視点を社会に向け観察をし、情報収集能力や正しい判断力・行動力を身につける好機ではないでしょうか。しかし、子どもたちは、難

しい言葉や様々な情報で混乱をしていました。そのような中で、確かな情報発信のもと子どもたちの元気を取り戻し、生きる力を身につけ、健やかな成長を促すために様々な体験活動が求められています。

今こそ、青少年団体と家庭・学校が手を取り合い情報共有し、子どもたちに分かりやすい情報を伝える工夫をするときだと思います。子どもたちの願いを中核におき、発達段階に応じた情報発信を何処が担うのかを共に考えていきましょう。

子どもたちへの提言

## いっぱい体験して 暮らしの中で五感を感じよう

速水 順一郎・青团連顧問



こどもたちへ  
君たちは、パソコンなどを使って様々なものを見ることがや知ることができる。  
でも、実際に、ふれたり、自身の体で感じることはとても大切なことです。

だから、いっぱい体験してほしい。虫や鳥などの生き物を観察してください。身近にある道具や職人さんが使う道具を使ってみてください。そして、いろいろなことを感じてください。

人間には五官という機能があります。  
見る、聞く、におう、味覚、さわることを通じて感じることです。日常の暮らしの中で五官を通じて感じましょう。

保護者への提言

## コロナ禍の非日常だからこそ 語り合う時間がほしい

鈴木 武・青团連理事(日本ボーイスカウト  
兵庫連盟理事長)



休校は何の前触れもなく突然にやってきました。子どもたちにとって理由も分からずに好きな学校へ行けなくなったことは一大事でした。ゲームに多くの時間を費やしてしまった子ども、学校のカリキュラムに沿って自習した子どもなど、さまざまな休校

生活がスタートしました。しかし子どもたちは生活リズムの変化に少なからずストレスを感じていたと思います。

休校により、子ども達に突然に与えられた時間は同様に保護者に与えられた時間と言えます。コロナという非日常であればこそ、保護者は子どもたちにさらに眼を向け、家族団らんの時、子どもたちに向き合い一日の出来事、思いや悩み、勉強のことや将来の夢など語り合うチャンスかも知れません。

青少年活動団体への提言

## 青少年団体の使命 ～居場所をつくるということ～

山崎 清治・青团連副代表理事(NPO法人生涯学習  
サポート兵庫理事長)



サードプレイスという言葉がよく使われています。学びや人間関係、リラックスを得られる「居場所」という意味です。その場所は習い事や地域の集まりなど、人によって作る場所は違います。青少年活動はまさに、子どもたちのサードプレイスの一つ

であったはずですが。コロナ禍で私たち青少年活動団体も活動が制限されていますが、私たちの活動には、プログラムを提供する「場」としてだけではなく、子どもたちの「居場所」という役割もあったのではないのでしょうか。今後も新たな災害や脅威が発生するかもしれません。どんな状況になっても孤立する子どもを作らない。子どもたちにとっての大切な「居場所」を作り、守り続けていくという使命が、私たちにあるように思います。